

◆令和6年度園方針・自己の重点目標

1. 学園の建学の精神 「実学教育」と「人格の陶冶」
2. 学園の教育の目的 人に 愛される人、信頼される人、尊敬される人 を育成することにある
3. 本園の教育目標 やさしさや思いやりのあるよりよい人間関係の育成 あいさつを中心とした基本的生活習慣の育成
4. 本園の三大方針(体・徳・智) 体をきたえる「いきいき」活動 心をみがく「のびのび」活動 智をほりおこす「わくわく」活動
5. 本年度の園経営方針 ①ひとりひとりの園児を大切にする幼稚園 ②信頼され、魅力ある幼稚園 ③子どもたちを中心に保護者・教職員がひとつになる幼稚園
6. 本年度の重点目標 ①本校独自の幼小一貫教育を確立する ②主体的な学習者を育成する土台をつくる保育を実践する ・園児を集中させる保育から園児が夢中になる保育へ ③園児の成長過程を重視する保育を実施する ・保育者がファシリテーターとなる保育へ ④「優しく笑顔で親切に」をスクールモットーとして、保育者全員のチームワーク、チームプレーでの保育を実施する ⑤保教会活動の内容について検討する

◆項目別評価シート評価基準

評価基準 (9・12・3月打ち込み)	達 成 状 況	評価基準
5	目標を上回って達成した。	A
4	目標どおりに達成した。	B
3	取り組みを進めたが、目標を達成するには至らなかった。	C
2	取り組んだが、改善の余地を残した。	D
1	ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった。	E

◆項目別評価シート

Ⅰ 保育の計画性	達成状況
	まとめ
①園の教育理念や教育方針を理解し、共感している。	4
②指導計画は、幼児の興味や関心、生活経験などを考慮し作成している。	4
③行事への取り組みは、幼児の負担などを考慮し計画的に行っている。	4
④指導計画に基づいて幼児が主体的に関われるような、安全で清潔感のある環境構成をしている。	4.3
⑤幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	4.2
⑥人間関係力を育成するために必要な保育環境作りを計画的に行っている。	4.2
⑦評価・反省に基づき、次の保育と計画に生かせるように行っている。	4
●「保育の計画性」について、評価と課題	
・子ども達の発信を保育に取り入れ、クラスや学年の垣根を越えて保育を計画し、行事に関しては、季節を感じながらより良いものとなるように精査して取り組んできた。今後も日々の保育を丁寧に行い、情緒が豊かに育つように保育の質を追求していく。そのためにも、教員の共通理解を深めていくことも大きな課題である。	
Ⅱ 保育のあり方、幼児への対応	到達状況
	まとめ
①登園時は視診を大切にし、幼児の体調や様子を観察している。	4.4
②体調が悪そうなとき、怪我をしたときなど適切な処置を行い、家庭へ連絡している。	4.4
③幼児の思いやサインを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している。	4.1
④個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解している。	3.9
⑤幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	4.1
⑥”ひとり一人”と”みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	4
⑦幼児の自尊感情を育てよう、言葉がけや対応をしている。	4
●「保育のあり方、幼児への対応」について、評価と課題	
・保育者一人ひとりが気づいたことを伝え合うことを意識して取り組んできた。子どもの表情や声をよく見て安定した園生活を送れるように、個々の育ちに応じた関わりを今後も大事にしていく。そのためにも、教員間で毎日の振り返りを重ねながら、子どもの可能性を引き出していけるように工夫する必要がある。	
Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正	到達状況
	まとめ
①保育に携わるものとして、専門知識や技能を身につけている。	3.9
②保護者と信頼関係をつくることに努めている。	4.1
③幼児と保護者との対応には公平さを欠かさないようにしている。	4
④あいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちなどを言葉に表している。	4.5
⑤他の人の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる。	3.9
⑥必要な事柄は園長・教頭及び学年主任に報告、連絡、相談をしている。	4.3
⑦園務分掌による仕事を理解し、責任を持って実行している。	4.3
●「保育者としての資質や能力・良識・適正」について、評価と課題	
・子どもや保護者の方と信頼関係を築いていけるよう、日々の挨拶を親しみを込めて行ってきたこともより良い関係性につながった。 今後も保護者の方には、対面の機会を有効に活用しながら柔軟に発信できるように努めていく。	

Ⅳ 情報の発信と受信	到達状況
	まとめ
①ひとり一人の幼児について、家庭の様子や養育方針などを把握している。	3.8
②クラスだよりブログなどで、保育実践の内容や意図、クラスの様子などを分かりやすく伝えている。	4
③個々の幼児の様子は、直接保護者と話をしたり電話をしたりして伝えている。	4.3
④保護者からの要望や意見などは、園長・副園長及び教頭・学年主任などに報告や相談をしている	4.3
●「情報の発信と受信」について、評価と課題	
・ブログの配信に関してはクラスにより偏りが見られたので、平等に配信できるように見直す必要がある。保護者からのご意見等はタイムリーに共有できているが、教員一人ひとりの対応力は今後高めていくことが課題である。	
Ⅴ 研修・研究への意欲・態度	到達状況
	まとめ
①研修会や研究会には自己課題を持って参加し、自分なりの考えをまとめている。	4.1
②自分の保育については自己課題を持って計画と反省を行っている。	4
③お互いの保育について検討し、評価・反省を加え、自らの保育につなげている。	4.1
④小学校の教育内容について理解するように努めている。	3.8
⑤幼児や教育・保育・社会情勢などの情報を日頃から得ようとしている。	3.9
⑥近畿大学学園の一員としての自覚を持って行動している。	4.1
⑦保育、その他の場面に於いても積極的に園児募集にかかわっている。	3.8
●「研修・研究への意欲・態度」について、評価と課題	
・年間を通して、外部の研修に参加し自分を振り返る機会や自己課題と向き合えるようにしてきた。園内でも日常の保育を見合う機会を定期的に持ち、保育者としての引き出しを増やす努力をしていく。園児募集に関しては保護者の協力も得ながら、今後も積極的に広報活動をしていく。	